

【令和 6 年度】

事業報告及びその付属明細書

自 令和 6 年 3 月 1 日

至 令和 7 年 2 月 28 日

一般社団法人 Next Education

【目次】

【目次】

A トリセツ流こども食堂運営

B Youtube 活動やセミナー・勉強会の開催

C 小学生英語のドリル開発

【活動詳細】

A「地域に定着: トリセツ流こども食堂」

1. 1年間の振り返り

令和6年度は「トリセツ流こども食堂」が地域に定着し、単なる食事提供の場から、地域の人々と子どもたちが自然に集う“居場所”として発展した1年でした。運営開始から3年目を迎え、地域内での認知度も高まり、ボランティア・支援者・地元企業との連携がより強固になりました。

プレオープン時から関わってくださった地域の方々に加え、口コミやSNSを通じて新たな協力者が増加。運営体制が安定し、開催回数・利用者数ともに前年を上回りました。特に、地域内の中学生や高校生がボランティアとして参加するなど、“支える側”的の世代の広がりも見られました。

2. 地域とのつながりの深化

地元企業や自治体や支援者のご協力により、継続的な食材提供・資金支援・会場提供が実現しました。地元食材を使ったメニューを増やし、地域の魅力を再発見する食育の場にもなっています。また、子ども食堂をきっかけに地域の高齢者ボランティアが参加するなど、世代を超えた交流が生まれました。

3. 子どもたちの変化

初めて来た時には緊張していた子どもたちも、今では笑顔で「ただいま」と言って入ってくるようになりました。年齢や学校の違う子ども同士が食卓を囲みながら交流し、自分の意見を言えるようになったり、友達をつくったりと、社会性の成長が見られました。保護者からも「子どもの表情が明るくなった」「地域との関わりが増えた」との声が寄せられています。

4. 今後の展望

令和7年度は、次の3つの方向性で地域定着をさらに深めます。

1. 学びの支援の強化：放課後学習支援プログラムの本格実施と、オンライン教材の拡充。
2. 体験機会の拡大：地元企業・農家・文化団体との協働による通年型プログラムの実施。
3. 地域との共創による持続運営：ふるさと納税・地域スポンサー制度の活用、協賛型イベントの開催など、自主財源確保の強化。

地域全体で子どもたちを支える仕組みが形となり始めた今、「トリセツ流こども食堂」は単なる福祉事業ではなく、地域づくりの中核としての役割を果たしていきます。

B. YouTube活動・セミナー・イベント開催

1. YouTubeでの活動

令和6年度は、これまでの「共通テスト対策ライブ」や学習支援動画に加え、英語のショート動画シリーズを増やしました。短時間で学べる形式とアニメーション要素を取り入れ、特に小学生・中学生の初学者層から高い視聴率を得ました。英語の発音や文法を学べる内容とし、学年を問わず楽しく学習できる構成にしています。

また、既存の数学講座では、配信を通じて過去問解説や受験直前対策を継続実施しました。視聴者の地域分布も広がり、地元佐賀県内に限らず、全国からもアクセスが増加しました。

2. 教育イベント「数学フェス 2024」の開催

本年度は新たに、「数学フェス 2024 (https://mathedufes.com/2024_1stfestival/)」を開催しました。オンライン・オフライン両形式で実施し、全国から延べ 500 名以上が参加。生徒・教師・一般参加者が一体となり、「数学嫌い 0 の未来へ」をテーマに講演を行いました。

全国から多数参加し、配信を通じて全国の学習者と交流。イベント後は、参加者から「地元でも全国レベルの教育イベントに参加できた」「数学が身近になった」との感想が寄せられ、地域における学習意欲の高まりが確認されました。

3. オンラインセミナー・ウェビナー

- 双方向型セミナー「疑問をその場で解決！」：少人数制での Zoom 開催を継続。数学のつまずき単元（確率・整数など）をテーマに、質問共有と講師解説を組み合わせた形式で理解を深めました。
- 教育者向け Webinar：「生徒の“なぜ”を引き出す指導法」をテーマに、アクティブラーニング・教材開発・ハイブリッド授業の事例を共有。特に「考える過程を可視化する授業設計」が好評を博しました。

4. 地域への波及と教育格差解消への取り組み

今年度は、「教育の地域格差をなくす」という理念のもと、特に英語教育コンテンツ制作に注力しました。地元の子ども食堂や学習支援会で活用できるよう、動画教材を無料公開し、経済的事情に関わらず誰もが英語学習にアクセスできる環境づくりを推進しました。

5. 成果と今後の展望

- チャンネル登録者数・視聴時間ともに前年比増加
- 小学生英語動画の再生数が増加
- 数学フェスを通じて教育機関との協働基盤を形成

今後は、YouTube・地域イベント・教育機関連携の三位一体型モデルを構築し、地域発の教育コンテンツを全国に発信することで、学習の地域格差解消をさらに推進していきます。

C. 小学生英語ドリル開発・改訂

1. 開発の背景

日本の大都市圏（東京・大阪など）では、幼少期から高校生、さらには社会人までを対象とした多様な英語教育機会が整備されています。しかし、地方圏、特に佐賀県内では同等の学習環境が十分に整っておらず、英語教育の格差が依然として存在します。幼少期から小学生を対象とした英語教育の場は限られ、家庭の経済的事情により継続的な学習が難しい家庭も多いのが現状です。

このような背景のもと、Next Education では令和 5 年度に小学生向け英語ドリルを開発しました。初年度の教材は、アニメーションを活用した導入映像により英語学習への心理的ハードルを下げるに成功しましたが、学習の実践段階において「動画を見た後に手が止まる」児童が多いことが課題として浮かび上りました。つまり、“見る楽しさ”から“学ぶ継続”への接続が不足していました。

2. 改良と進化 — 「問題にも動画を」

この課題を解消するため、令和 6 年度は従来の「導入動画」に加えて、各問題ごとに専用の動画を新たに制作しました。単なる説明映像ではなく、児童が問題に取り組む瞬間に再生できるように設計し、考え方のヒントや解答プロセスを楽しく導いてくれます。

これにより、学習者は「わからないから止まる」ではなく、「動画を見ながら進められる」という新しい体験へと変化。児童の集中力と学習継続率は大幅に向上しました。実際に、こども食堂や地域学習会での導入時には「最後までやり切れた」「わからないときに動画を見るのが楽しい」といった声が多数寄せられました。

3. 特徴と新機能

(1) 全問題動画化

従来の 2 倍以上となる動画数を新規制作。問題文、発音、文法解説を動画形式で一体化し、紙とデジタルを行き来できるハイブリッド教材として完成しました。

(2) ふりがな＋イラスト強化

全漢字にルビを付け、低学年でも自力で読み進められるよう設計。加えて、単語イラストを拡充し、意味理解を直感的にサポートしています。

(3) 動画連携 QR コード

各ページに QR コードを配置し、スマートフォンやタブレットから瞬時に該当動画へアクセス可能。保護者やボランティアがサポートしやすい構造となっています。

4. 地域での実践と効果

佐賀県内の子ども食堂での試験導入においては、児童の学習意欲向上が顕著に見られました。学習の途中で手が止まることが減り、保護者からも「家庭でも動画を見ながら一緒に学べる」「わからないところで止まらず進める」と好評でした。

5. 今後の展望

2025 年度は佐賀県内のことども食堂に本ドリルを無償配布できるよう、制作・印刷・流通体制の整備を進める予定です。これにより、経済的な事情に関係なく、すべての子どもが平等に英語学習へアクセスできる環境を実現を目指します。s

令和 6 年度版の改訂は、地方における英語教育の新しい形を示すものであり、「楽しさ」と「継続」の両立を実現した教材として、地域教育の未来を切り拓く成果となりました。

事業報告の附属明細書（令和 6 年 3 月 1 日～令和 7 年 2 月 28 日）

1. 事業報告の内容を補足する重要な事項 該当なし

以上